

5 組織運営

具体的な内容		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員(学校評議員)のコメント
学校の課題を明確にして、特色ある学校運営を計画的・組織的にしている	前期	おおむね良好	おおむね良好	自己有用感の醸成、コミュニケーション能力の育成という課題解決に向け、これまで取り組まれてきた活動に加え、様々な人々との交流や体験活動の機会を新たに創出し、効果を上げている。自己有用感に関する調査では、子どもと保護者の数値に大きなギャップがある。子どもが親に気を遣い過ぎているような傾向もあるのではないかと、ぜひ、一人一人のよさを伸ばす教育を推進するとともに、保護者への啓発にも努めてほしい。体育を中心とした研究やパワーアップタイムへの取組、子どもを担任だけでなく複数の職員で見守り支援する体制づくりなど、学校が一体となって取り組んでいる様子がうかがえる。
	年度	おおむね良好		
評価指標			主な取組	自己評価B 前期 年度
⑨課題に対応した特色ある学校運営	教育目標の明示、評価結果の公表、PDCAサイクルを生かした改善			3 3
	調和のとれた教育課程の編成、ねらいに即した学校行事の運営			4 4
⑩自己有用感を高める生徒指導の充実	学級づくり、教育相談・児童理解、児童を語る会、問題行動への対応			4 4
⑪個に応じたきめ細やかな学習指導(学力検査で個々が前年以上)	学力検査の分析と個別指導、チャレンジテスト・県単元評価テストの活用 パワーアップタイム			3 3
⑫指導力を高める研修の充実	校内研究の推進、授業のユニバーサルデザイン化、研修成果の共有化			4 4

学校の改善策	【前期→後期】
	<p>⑨ 自己有用感と自尊感情を高める工夫やコミュニケーション能力の育成を、統合までの中期目標として再確認し、重点実践事項として掲げ、様々な教育活動の機会や会議等において、全職員が同じ方向で取り組むよう働きかけている。児童に対しては、「挑戦」を今年のキーワードとして意識させるとともに、繰り返し取組の過程を賞賛することで、自己有用感を醸成していく。また、日々の授業を充実させるとともに、地域の人々に関わる機会を充実させたり他校や子ども園などとの交流したりすることで、コミュニケーション能力の向上に結び付けていく。また、保護者にも子どものよさを認めるようPTA等を通じて働きかけていく。</p> <p>⑩ 教育相談・児童理解については、定期的なアンケートや児童を語る会などを通じて全職員で共通理解を図っている。また、今年度は、外部人材を活用して「ココロの教室」を行い、いじめ根絶に向けて取り組んだ。今後もチームとして様々な問題に対応し、いじめゼロ、不登校ゼロを目指して取り組んでいく。</p> <p>⑪ 今年度は、新たに毎月1回の「プレミアムパワーアップタイム」(PPU)を設定し、更に子どもたちの基礎・基本の定着が図られるように努めている。また、授業のねらいとまとめを明確にするとともに、単元評価問題を活用するなどして、個に応じた指導を引き続き充実させる。</p> <p>⑫ 昨年度に引き続き、学団体制での「分かる・できる・共に学ぶ」体育科の授業づくりに取り組み、鹿角小学校教科研究会では高い評価をいただいた。喜んで授業に取り組む姿勢が見られ、自分の思いや考えをもち生き生きと表現する児童の育成が具現化されてきた。他教科・領域にもこのよさを波及させていきたい。</p>

学校の改善策	【後期→次年度】
	<p>⑨ 指導部で重点実践事項を意識した取組を推進したり、様々な教育活動の機会に周知したり、広報等の活用により、今年度のキャッチフレーズや重点事項の周知が図られ、特に児童アンケートの結果はよい傾向を示していた。また、総合的な学習の時間やクラブ活動等では、地域のよさを見つめる新たな試みが行われた。今後も、ふるさとのよさを見つめさせながら、自己有用感やコミュニケーション能力の育成が図られるような教育活動を推進していく。次年度は地域のよさを見つめる活動を更に充実させるとともに、統合に向けて北小との交流を推進していきたい。</p> <p>⑩ 教育相談・児童理解については、教職員の肯定率は100%となっているものの、前期より数値が下がっており全職員による、より丁寧できめ細かな対応が必要である。道徳授業の充実やかがやき集会、いじめ防止子ども会議等に向けた取組はもとより、日常の子どもとのふれ合いを大事にするなど、保護者や関係機関との連携を大切にしながら、今後も早期発見・早期対応、組織としての対応を心がけていく。</p> <p>⑪ PPUによる回復指導、47都道府県テストへの取組などにより、基礎・基本の定着が少しずつ図られてきている。ただし個人差があるので、今後も伸び悩む児童に対し、学習に向かう姿勢や意欲を育てる細やかな配慮を心がけながら、回復指導の時間確保をするなど、個に応じた指導を充実させていく必要がある。また、単元評価問題など良質な問題を積極的に活用して、思考力や判断力等を高めていきたい。</p> <p>⑫ 鹿角小学校教科研究会では、本校の体育科授業に対して多くの賞賛をいただいた。ユニバーサルデザインの視点を生かしたその取組のよさを他教科にも広め、分かる授業、主体的・対話的で深い・授業づくりの推進に努めていく。「ちょこっと授業を見合う会」など、職員による研修機会も更に充実させていきたい。</p>

【各種データ】

保護者アンケート		前期		後期	
		平均	肯定率	平均	肯定率
⑪	子どもは、自分のよさを見付けている。【自己有用感】	2.8	70	2.9	66
⑫	子どもは、周りの人たちとスムーズに意見を言い合える。【コミュニケーション能力】	2.9	80	2.8	66
⑬	子どもは、様々なことに積極的に「挑戦」しようとする。【今年度のキャッチフレーズ】	3.1	77	3.1	73
⑭	教職員の対応は迅速で丁寧である。	3.5	96	3.5	98

児童アンケート		前期		後期	
		平均	肯定率	平均	肯定率
☆	自分のよさやがんばりを発揮できましたか。	3.5	89	3.5	95
☆	友達や、周りの人たちと上手に意見を言い合うことができましたか。	3.3	80	3.5	91
☆	自分で目標を見つけて積極的に「挑戦」することができましたか。	3.6	93	3.6	90

職員個人評価		前期		後期	
		平均	肯定率	平均	肯定率
⑨	教育目標の明示、評価結果の公表、PDCAサイクルを生かした改善	3.4	100	3.3	100
	調和のとれた教育課程の編成、ねらいに即した学校行事の運営	3.2	100	3.3	100
⑩	教育相談・児童理解、児童を語る会、問題行動への対応	3.4	100	3.2	100
⑪	学力検査の分析と個別指導、チャレンジテスト・県単元評価テストの活用、パワーアップタイム	3.2	100	3.4	100
⑫	校内研究の推進、授業のユニバーサルデザイン化、研修成果の共有化	3.4	100	3.7	100

自己評価A及び外部評価の評価区分
○きわめて良好
○良好
○おおむね良好
○やや不十分
○努力を要する

自己評価Bの評価基準	
5	実現状況は極めてよく意識も高い/達成率91%以上、前年度比108%以上
4	実現状況は良好で意欲もある/達成率80~90%、前年度比103~107%
3	実現状況は概ね良好/達成率60~79%、前年度比98~102%
2	実現状況はやや不十分で取り組みが不安定/達成率50~59%、前年度比93~97%
1	実現状況は不十分で努力を要する/達成率49%以下、前年度比92%以下